

JOCジュニアオリンピックカップ
第51回全日本中学生ホッケー選手権大会

【今大会レギュレーション(TD通達)】

1. 大会運営 本大会の運営は、(公社)日本ホッケー協会競技規則・競技運営規程ならびに第51回全日本中学生ホッケー選手権大会実施要項による。
2. 競技規則 (公社)日本ホッケー協会 2021年度6人制ホッケー競技規則による。
3. 競技時間 試合時間は、前半15分・後半15分とし、前後半の間に5分間の休憩をおく。
ただし、今年度は、予選リーグを6分間の4クォーター制とし、第1・第3クォーターの後に1分間の休憩(コーチング可)、第2クォーターの後に5分間の休憩を設ける。
4. 時計 試合時間は、テクニカルテーブルで管理する。
5. 競技方法 (1) 男女とも、3チーム総当たりの予選リーグを行い、上位各2チームが決勝トーナメントに進出する。なお、決勝トーナメントの組み合わせは、予選リーグ終了後に抽選会を実施し決定する。
(2) 決勝トーナメントにおいて規定の時間内に勝敗を決しないときは、延長戦は行わず、試合終了後ただちに「7」に定めるシュートアウト戦(以後「SO戦」とする)を行い、勝敗を決する。
6. 予選リーグの順位決定方法
 - (1) 勝ち点の多いチームを上位とする。勝ち点は、勝利チームに3点、引き分けチームに1点、敗戦チームに0点をそれぞれ与える。
 - (2) 勝ち点が同点の場合は、下記の順序・方式により順位を決定する。
 - ① リーグ戦における「得失点差」(「総得点数-総失点数」の差が多いチーム。)
 - ② リーグ戦における「総得点数」の多いチーム。
 - ③ 上記において、なお同点の場合、「7」に定めるSO戦により順位を決定する。
なお、同位チームが3チームの場合のSO戦は、同一チームが連勝したとき、そのチームを1位とする。(SO戦は試合終了5分以内に実施する)
7. シュートアウト戦(SO戦) ※詳細については2021年競技規則及び2021年競技運営規程参照
 - (1) 両チームの監督は、レッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた、公式試合記録に記載された選手の中から3名の選手と1名のゴールキーパーを指名する。
 - (2) 両チームの主将によりトスを行い、先攻・後攻を決める。その後、両チーム3名ずつの選手により交互に攻防を1巡行い(計6回)、得点の多いチームを勝者とする。
 - (3) (2)の方法によって勝敗の決しない時は、両チームが同数の攻防を行った中で最初にリードしたチームを勝者とする方式(サドン・デス方式)により、再SO戦を行う。
この場合、選手はプレイ不可能な者を除き各チーム同じ選手により先攻後攻を入れ替え、SO戦を行う。ただし、攻撃を行う順番は変えても良い。
 - (4) SO戦においてPSになった場合は、当該SO実施選手に限らず公式試合記録に記載された選手のPS実施が可能である。
8. 試合の中断と追試合
天候などやむを得ない理由により試合が中断された場合は、下記により試合を再開する。
 - (1) 追試合の場合は、中断した時の得点で残り時間のみ試合を行う。

(2) 追試合の期日・競技場・審判員等は、これを変更することができる。

9. チームベンチ

1 チームの編成は、監督1名、コーチ1名、手当てをする者2名、選手12名以内とする。

※選手は1～12の番号をユニフォームの定められた場所に明示する。

※エントリーの際、同一校の男女チームの監督を兼ねることはできない。監督とコーチの兼任は可とするが、男女それぞれのチームでJHAのチームスタッフ登録を済ましていること。なお、監督については教員であること。また、手当者については成人であれば今年度まで登録を免除している。チームベンチには、スターティングリストに記載された者以外は入ることができない。(但し、学校長、ベンチには入れない3年生等、TDの許可を受けた者はこの限りではない。このことは監督会議で確認する。)

10. フィールドへの立ち入り

試合中、選手にケガ等が起こった場合は、ベンチ内にいる手当てをする者及び監督・コーチどちらか1名が、当該審判員の許可を得てフィールド内に入り、手当てを行うことができる。(ただし、その際にコーチングをすることは厳禁)

11. 選手の交代

- (1) 各チームは、試合中随時どの選手でも交代できる。但し、ペナルティーコーナーが与えられている間は、誰も交代できない。(負傷した守備側のゴールキーパーは除く)
- (2) 一時退場(イエローカード:2分以上)させられた選手に対する交代は、当該選手の退場時間中は許可されない。
- (3) 選手の交代は、センターライン付近で行われる。その際、時間の停止は行わない。但し、ゴールキーパー及び負傷者の交代については、審判員の管理下で行われる。

12. ルール確認 《(1)~(6)2019 変更の再確認、(7)~(8)2021 新規変更》

- (1) サークル内にある防具により、おそらく入っていた得点が防がれた場合→P S
- (2) サークル内における守備側のFHは、従来通り反則地点のサークルトップ(12m 地点)に加え、サークル内のどの場所から再開することも可能となった。
- (3) サークル4m以内での攻撃側FHの場合、FHが即座に行われない場合はサークル内であっても4m離れる。(常に4m離れようとする指導を奨励)
- (4) PC終了の条件から「サークル外に2回出る」の要件を削除。
- (5) PCにおいて攻撃側のフライングは、罰則としてパッサーがセンターラインに戻される。
- (6) PC終了直後に速やかに行われる守備側FHでは、防具を外さずにパスを出すことが許される。(ただし、パスの1プレイが許されるが、ドリブルすることは許されない。)
- (7) GKの肘用防具については、覆わなくてもよくなった。
- (8) ブリーによる再開方法について、6人制についてもスティックの平らな面を軽く1回打ち合わせる(11人制と同様の)方法となる。

13. 確認事項

- ① ユニフォームは必ず2着用し、試合会場に持参すること。
- ② 選手はすね当てを必ず着用し、ストッキングを上まであげて履くこと。膝は隠さないこと。
- ③ キャプテンは、上腕及びストッキングのどちらかにキャプテンマークをつけること。
- ④ ゴールキーパーは、ケガの防止のため装具を完全に着用すること。アンダーパッドは必ず使用すること。(チームの責任で遵守すること)
- ⑤ チームベンチは、[競技日程表]の左側のチームが赤印のついたベンチとする。
- ⑥ 今大会では「スターティングリスト」の提出は行わない。

試合開始15分前にメンバーチェック及びリングパス、服装・装具の点検を実施するので、次試合のチームは次試合チームテントで待機する。その際、監督はスターティングメンバー6名を担当競技役員に申告する。なお、メンバーチェックは「登録証」を持参して行う。

- ⑦ ペナルティーコーナーで使用する保護具は試合開始前に必ず TO に使用確認すること。
その際、使用する保護具に、感染予防のための共用を避けるため使用者を特定する印や名前などの確認も行う。
- ⑧ 本大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から無観客とする。
- ⑨ 試合中、乱暴なプレイや審判員に対する誹謗等、スポーツマンらしくない行為は、厳に戒める。
なお、H28年度より、全チーム監督は「行動規範確認書」に署名し提出することとする。
- ⑩ 選手が負傷により出血したとき、頭・顔・心臓付近にボールが当たったときは審判員が負傷の状況を確認し、退場を命じたときは直ちに退場すること。止血処理と傷の手当てが完了するまでは、再出場できない。(2分以上の安静)
- ⑪ 棄権または試合中に退場・怪我等により、1チームの人数が3名以下になった場合は、その試合は没収試合とする。
・予選リーグにおいて没収試合があった場合は、そのチームの試合をすべて没収し、残りのチームで順位を決定する。
・決勝トーナメントにおいて没収試合があった場合は、相手チームの不戦勝とする。
- ⑫ 「負傷・事故報告書」の提出を課せられた者は、医師による治療後、負傷・事故報告書を TO または TD に提出する。本人への健康確認のうえ、次試合の出場を認める。試合が無い場合は、負傷・事故報告書を大会事務局に郵送すること。
- ⑬ 全日本中学生ホッケー選手権大会において、抗議制度はない。
- ⑭ 試合終了後、両チームの監督は、テクニカルテーブルで署名すること。
- ⑮ その他、本規定に定めのない事項または、不測の事態が発生した場合は、TD の指示に従うこと。
- ⑯ 決勝トーナメントの組み合わせについては、予選リーグ終了後に抽選会を実施する。
その際、決勝トーナメントの参加チームは監督・コーチまたはそれに代わる者(成人)が参加する。ただし、参加ができない場合には「委任状」を提出することにより、大会実行委員会による代理抽選を行うこともできる。

14.新型コロナウイルス感染拡大防止対策

- (1) 本大会は、無観客により大会を実施する。
- (2) 大会実行委員会が定める感染拡大防止ガイドラインに従うこと。
大会初日には、「大会参加同意書」及び「2週間前からの健康観察表(個別)」、「当日の健康観察表(チーム一覧)」等の提出を求める。
また、大会2日目・3日目は「当日の健康観察表(チーム一覧)」の提出を求める。
- (3) 大会期間中に、選手や引率者に風邪の症状(発熱、咳、鼻汁、咽頭痛、頭痛等)や倦怠感、味覚臭覚異常など、新型コロナウイルス感染症が疑われる症状がある場合、そのチームの大会参加を認めず棄権とする。
- (4) 大会期間中に、対戦した相手チームの選手や引率者に風邪の症状(発熱、咳、鼻汁、咽頭痛、頭痛等)や倦怠感、味覚臭覚異常など、新型コロナウイルス感染症が疑われる症状がある場合、そのチームの大会参加を認めず棄権とすることもあり得る。
※上記(3)(4)は、今年度の全中大会チーム競技に共通する規定である。